

川崎市パラムーブメント/ シティミュージアム企画案



川崎市パラムーブメント/シティミュージアム企画案

街中の壁・工事中の仮囲い・地面などに描く、本物志向の多様なアート表現イベント。
アーティストを日本のみならず、ニューヨークなど海外からも招聘。
本物のアーティストと、地域の子どもたちや障害者が、公共空間に描く街中アートイベントを開催。

時期 : 春～秋

期間 : 1日～1週間

場所 : JR川崎駅、市役所新庁舎、多摩川沿いの壁面等

費用感 : 日程感や規模などによって応相談

(想定される費用 : イベント運営費・人件費、アーティスト謝金、NYからの渡航費等)

対象 : 市民、来街者、市内小・中学校、養護・支援学校の生徒



■ アーティスト（案）

From JAPAN

坂巻善徳 a.k.a. sense

美術家、有限会社senseseeds代表。
1971年12月生まれ。美術作家、ライブペインターとしての活動を軸に店舗内壁画、グラフィックデザイン、プロダクトアートディレクション、クリエイティブコンサルティングなど、様々な分野で多数のコラボレーション作品を制作、その作品を通して世界に<Peace & Happiness>を送り出し続けている。

KAZ

奥田和久。イラストレーター。
似顔絵、イラスト、デザイン、壁画、ライブペイントなどで活動。尚、壁画によって景色をデザインする壁画制作企画「city gallery」を進行中。人や物、音や場所など、全てを対象にコミュニケーションを続け、調和する事を目的とした絵や表現で、全てにとっていいものを目指し活動中。

From NEW YORK

CHRIS MENDOZA (クリス メンドーサ)

グラフィティグループ「INKHEADS」、アーティスト集団「Barnstormers」に属し、アブストラクトでフューチャリスティックな作品を発表。緻密なラインで描かれる作品には、自信のルーツであるマヤの文化、中南米インディアンアート、NY-マイアミカルチャーと建築学にインスパイアされた世界が表現されている。

■ 日本理化学工業の「チョーク」や、「キットパス」を活用したイベント事例



STEP ①

弊研究所主催の「ピープルデザインストリート@神宮前二丁目商店街」にて。商店街を歩行者天国にして、プロのアーティストと、子ども達が一緒に「チョーク」を使って道路へ自由にラクガキ



STEP ②



STEP ③

イベント終了時には、「チョーク」を消すおそうじを、子ども達が自ら行う

< その他事例 >

- ・横浜シーサイドラインの車両基地にて、「キットパス」を使って、養護学校の生徒が絵を描いた
- ・商業施設や公共施設のガラス面に、「キットパス」を使って、こども達が自由にラクガキ

■ ライブペインティング

アーティストがその場でペインティングを行い、アートが完成するまでの過程を来街者に見せていく

<イメージ写真>



■ トークショー

弊研究所 代表理事 須藤がMC役となり、アーティストとのトークショーを行う

<イメージ写真>



川崎市パラムーブメント/ 舞台「幸福な職場」企画案



川崎市パラムーブメント／舞台「幸福な職場」企画案

2009年の初演以来上演を重ねる、舞台『幸福な職場』。全国初の障害者雇用モデルの第1号となった日本理化学工業をモデルにしたこの物語を活用し、エンターテインメントを通じて、演じる側と観る側、双方の障害者理解を促進していく。

A案) 川崎市内での上演に際し、その冠スポンサーとなって頂く。

(招待席50席程度を提供)

時期：要検討

場所：ミュージア川崎、他市内ホール等

費用：要相談

対象：市民、来街者

B案) 市内の中・高等学校の演劇部に演じて各校で発表する。

時期：要検討

場所：市内中・高等学校等

費用：台本は無償で提供

対象：市内中・高生、市民

C案) 市内の中・高等学校 演劇部の演出を指導する。

時期：要検討

場所：市内中・高等学校等

費用：台本は無償で提供、指導者と費用は要相談。

対象：市内中・高生

■ 舞台「幸福な職場」

本作は昭和34年、日本理化学工業のチョーク工場で、初めて知的障害者を雇用した時の実話をもとにした、「お仕事」にまつわる物語を描いた舞台。

障がいを持った少女が人生で初めて「働く喜び」を知り、様々な事情を抱えた従業員たちに、仕事への向き合い方を考えるきっかけをもたらしていく。

FMラジオ「J-WAVE」の番組の放送作家としても活躍する きたむらけんじ 氏の代表作で、2009年の初演以来、規模を拡大しながら上演を重ねている。

< あらすじ >

父親が病気に倒れたため、急遽、会社を継ぐことになった大森泰弘（安西慎太郎）。その会社は黒板で使う“チョーク”のトップメーカーだった。慣れない経営に四苦八苦する毎日。そんなある日、養護学校の女性教師・佐々木友枝（馬淵英里何）が「来年卒業する生徒を雇ってもらえますか？」と訪ねてくる。養護学校の生徒とは、つまり、知的障害者。「そんな事情を持つ子を受け入れる自信がない」と断る大森。しかし、従業員の久我省一（谷口賢志）が何故か熱心に受け入れを勧めてくるので「職業体験」として期間限定で受け入れることを渋々と承諾し、知的障害を持つ少女、吉岡聡美（前島亜美）が工場にやってくる。

「うちの会社にそんな余裕は無いはずだ！」と従業員・原田亮輔（松田凌）は反発するのだが…その原田に聡美はほのかな想いを寄せ始める。聡美のために、簡単な作業を任せるのだが、仕事覚えの遅い聡美に、とうとうイラだちを隠せなくなる大森。

その様子を観ていた徳凜寺の住職（中嶋しゅう）は、大森に対して「人間の幸せ」とは何か？働くこと、働かせることの真理を語る。この説法をキッカケに大森は、ささやかな奇跡を呼び寄せることになる・・・。

ありふれた職場に生まれた小さな「奇跡」と「幸福」。どこの職場でも起こりうる、ささやかな人間ドラマ。

■ 日本理化学工業

チョークをはじめとする文房具・事務用品の製造販売を行う企業。1960年に2名の知的障害者の女性を正社員として雇用し、以後もほぼ毎年障害者の雇用を続ける。1975年には全国初の障害者雇用モデル工場第1号として川崎工場を開設。1981年には美唄工場も障害者雇用モデル工場となった。社長（当時）の大山泰弘や従業員が厚生労働大臣表彰・内閣総理大臣表彰を受けたほか、2005年には日本理化学工業が社団法人日本フィランソロピー協会より、企業フィランソロピー大賞社会共生賞を受賞。現在、全体の70%以上が知的障害のある社員。